



## インドネシア・バリ州プロジェクトの状況

2021年4月に経済産業省からMCSCC提案の「インドネシア(バリ島)スマートシティ開発に向けたスマートモビリティ・インフラ開発調査事業」が採択され、同年11月にバリ州サヌール及び対岸の島嶼ヌサペニダでの調査を行いました(Vol.17で既報)。

当該調査報告書は、経済産業省が公開しておりますので、上記記事名で検索するか、右のQRコードからご確認願います。



また、2022年10月、豊崎禎久・橋本剛両代表理事をはじめとする調査チームがバリ・サヌールに集まり、同月26日バリ州政府サムシ局長の仲介のもとサヌール開発財団とMCSCCの間で連携に関するMoU(覚書)が交わされました。同財団はサヌールの王族のひとりであるグステ氏が会長を務め、同地区の将来像の策定や具体的な対応策の検討を行っており、同財団との連携は、「課題主導型」を目指すMCSCCにとってサヌール地区でのスマートシティづくりに大きな意義があると考えています。



今年に入ってから、先月(2023年6月)、豊崎代表理事やMCSCC会員企業関係者がバリ州サヌールを訪ね、6月16日にバリ州政府サムシ局長と会談を行いました(写真上)。MCSCC側の主な出席者は、豊崎代表理事、株式会社FORCETEC竹村陽平代表取締役社長、同社岸貴義取締役、株式会社eMoBi石川達基代表取締役社長でした。



また、同じ6月16日、サヌール開発財団グステ会長らと会談を行いました(写真上)。ここでは、先のバリ州政府サムシ局長との会議内容をレビューし情報を共有するとともに、同財団の推進するサヌールツーリズムへの一環として、FORCETEC社の「スマGo」とeMoBi社のマイクロモビリティの提案を行いました。これらの提案については、グステ会長から高い関心が示され、また会長から7月末のサヌールフェスティバルへMCSCCを招待するとの申出をいただき、フェスティバルでのスマGoのデモンストレーションを行うこととなりました。



豊崎代表理事、バリ州サムシ局長、グステ財団会長

